

A-116 タマネギにおけるルチンについて

広島大教育 黒崎敏晴 ○玄元紀美子

目的 タマネギにはフラボノールの一類クエルセチンのルチノース配糖体である降圧剤として有効なルチンを含むしているが、各リン葉部位について、また貯蔵中における含有について検索するために、薄層クロマトグラフを用い実験を行なったのでその概要を報告する。

方法 タマネギ収穫後室温に貯蔵して検試した。タマネギのリン葉を①内芽を含む中心部の3葉②中心部より5,6葉③中心部より8,9葉にわけ、メタノールで抽出し、薄層クロマトグラフを行なった。展開溶媒はn-ブタノール・酢酸・水(4:1:5)と氷酢酸・アセトン・メタノール・ベンゼン(5:5:20:70)を用いた。展開後、スポットをメタノールおよびエチレンジグリコール；水酸化ナトリウム等にて抽出し、島津製20A分光光度計によりルチンを検索し、測定を行なった。

結果 薄層クロマトグラフにより分離し検索したところ、タマネギの内芽部を含む中心部、中心部より5,6葉部、8,9葉部の三部位いずれも黄色のスポットのルチンの存在を確認することができた。

ルチンの含有量は表皮下の可食部の9,8葉部に多く、中心部にいくに従って少くなる傾向がみられた。